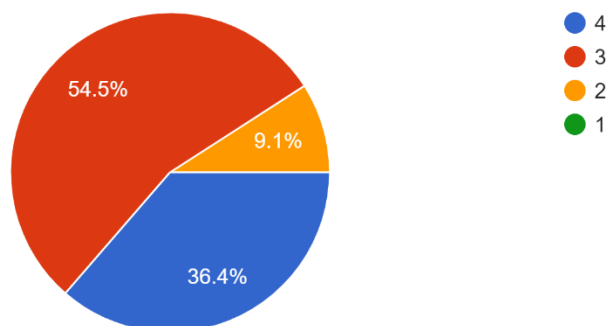


## 令和5年度 学校評価集計 (教職員)

### 1 互いのよさを認め合い、高め合う 人間関係づくり

①実践目標：学校教育目標を共通理解して学級経営方針を立てる。

11件の回答



#### 成果 11 件の回答

分かりません、。

なし

「ともに」を常に意識し、様々な学校行事のスローガンなどに反映していた。

協同的なクラスになるように学習指導や生活指導を行った。

学校教育目標や学級目標を意識することで、仲間と関わりながら学ぶこと、みんなの中で自分の思いを出し、関わりながら遊ぶことができた。

互いのよさを認め合おうとする風土は出来つつあるかと感じています。

「ともに」を児童との合言葉にして、一人一人を尊重しながら、学級集団として鍛えてきた。

各行事を協力してやり遂げることで、子どもたちは成長できたと思う。

・担任との連携を図りながら、授業・学校生活について支援を行うことができたと感じる。

学校教育目標をもとに、経営方針をたてることができた。

学習面だけでなく、情緒面の重要性を念頭に置きながら学級経営方針を立てることができた。

#### 課題と方策 11 件の回答

良さを認め合い、高め合える学級は作れていないと感じています。言葉づかいについての取り組みをもう一度行いたいと思っています。

なし

特になし

個々人の力を最大限生かしていく視点が欠けているように感じた。

意識して声掛けや振り返りが必要。

児童が、自分自身のよさを理解するのが難しいと感じました。今後はその点が特に課題です。

3学期になって、中学校への期待や不安が垣間見れるようになり、少し落ち着かない様子が感じられる。常にめあてがあって、ハリのある学校生活を送れるように配慮している。

学校全体の流れに乗れ切れない児童への支援をどうするか。

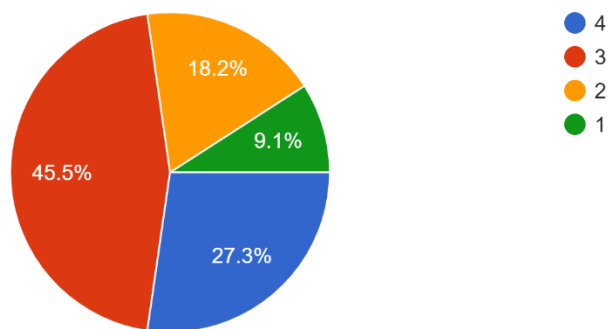
課題としては自分自身の経験値と子どもの観察を日々深く行い、支援を考えることだ。方策として些細な事でも先輩や管理職と相談を行っていくことだ。

来年度は、社会学園に向けてのことも考えておく必要がる

課題: 他のクラスメイトとの関係性を、「認め合って高め合う」というものにはできていない。方策: 他者との関わりに対する望ましい言動について、とっさの選択肢に浮かぶようにしたい。

②実践目標：特別支援教育や人権教育の視点を大切にし、児童の特性と気持ちに寄り添う。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

常に人権を守れているか確認しています。自分が気付いていない所で傷つけていないか、特別支援児童を無理させていないか考えながら行っています。

あいあいタイムや就学支援委員会などの機会に全職員での共通理解を図っている

小人数なので、全職員で共通理解のもと丁寧に指導にあたることができた。

あいあいタイムやケース会議等で共有・検討を図った。

情報共有、共通理解をしてみんなで取り組んでいると感じる。

児童についての情報共有の時間はよくとられています。

特別支援、ジェンダー、生活指導などの視点で職員間の情報共有を図り、どのような対応をしていくのかを検討する機会を多く持つことができている。

会議などで、共通理解を図り、児童と向き合うことができていた。

・人権教育としては、子どもたちが学校の教科以外で人権教育を知るきっかけを作ることができたと感じる。

あいあいタイムや、適就支援委員会の中で全職員と共通理解をしながら進めることができた。

児童にとって、どの段階から「できた」と喜ぶ域なのかを、自分基準ではなく児童の今までの視点から考えるようにする。また、その時に「このぐらいではまだ喜べない」という児童自身の矜持も大切にする。

### 課題と方策 11 件の回答

発達特性について知識不足などところがあるので、研鑽を続けたいです。

共通理解を図っているが、具体的な取り組みについて全職員が共有して生かしていくことができていないので、子どもの様子報告よりも、具体的な支援などの共有をして活かしていきたいと感じる。

小人数であるがゆえに、クラスの人間関係がどうしても固定化してしまう。縦割り班の活動の中で、自己有用感を高めていたように感じる。今後も、大切にしていきたい。

報告に終始した印象である。相談や意見交流ができるとういのではないか。

行事や活動への参加体制や困り感など、保護者との連携も大切にする。

特別支援の具体的な支援策について、まだまだ私たち教職員が勉強する必要があります。

日々の打ち合わせや会議等に参加されない方との情報共有をより充実させ、意図的にしていくための方策を検討する。

今後も担任や担当一人の負担にならないようにしていく必要がある。

課題としては人権教育担当者としては、日常生活に人権教育の単元に触れる機会を増やしていくことである。

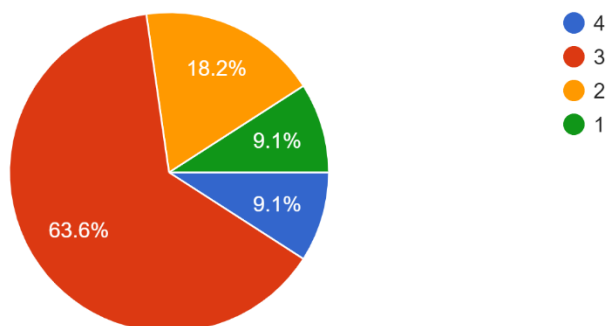
方策として自分が考えていることを先輩や管理職と相談を行っていくことだ。

現状共有ではなく、支援方法や成果などを共有する時間を増やしてほしい。

課題: 他のクラスメイトとの能力に差について、児童自身に諦観が感じられる。方策: 自分のペースでいいということ肯定し続ける。児童自身が、自らの能力に対して抱いている不安に寄り添い、「挑戦する」ということ自体に前向きな気持ちを持ち続けられるように支援しながら、「他者と高め合う」という機会が生じるようにする。

③実践目標：学級経営方針に沿って、中長期に渡る意図的、計画的な学級づくりを進める。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

時期にあった単元や教材を使うことによって、方針を意識した授業や関りができた。

なし

各担任の先生方と子どもたちで、良好な人間関係を築いていた。

個人としては、意識した。

学期ごとや学校行事ごとに、目標を示し、取り組んだ。

大きなイメージをもって教育活動に取り組みました。

学校行事や授業などを節目にして、その時期に重要だと思える力をつけられるように鍛えた。

総合学習を通して、学級づくりを行うことができた。

・担任との連携を図りながら、授業・学校生活について支援を行うことができたと感じる。

一年を通して、どのような子どもを育てていきたいかを考えながら、進めていった。  
習慣面について、継続的に声掛けやほめる指導を行い、いくつか身についた。日々の出来事や、行事の感想を楽しそうに思い返して話す時間を多く設けられた。

### 課題と方策 11 件の回答

強く学級経営方針を意識しながら取り組むことができなかった。

なし

目の前の行事をその場その場でこなしている感じがしたので、年間の見通しをしっかりと、計画的に目標をもって行事に向かえるようにしていきたい。また、行事をするだけでなく、子どもたちと振り返りの時間をしっかりと、成長につながるようにしていきたい。そのためには、全体への提案を早く行う必要があると考える。学級経営方針を振り返る場面はなかった。数年を見越した計画が必要である。

今できていること、よいところ、課題を定期的に見直していく。

具体的な計画づくりを欠いていました。

学校全体で授業づくりとともに、学級集団づくりについても情報共有したり、検討したりしていくのがよい。Quでは、高学年だけになるので、低学年も検討するのがいいのではないかと考える。

子どもの発想を大切にしながら、教師の立場として計画的に進めていく。

課題としては自分自身の経験値と子どもの観察を日々深く行い、支援を考えることだ。方策として些細な事でも先輩や管理職と相談を行っていくことだ。

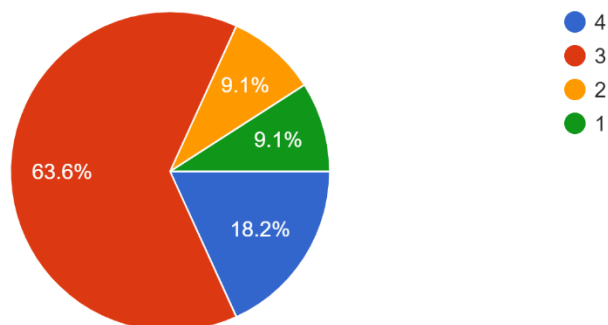
年度途中でも、子どもの様子や状況に変化があり、気づきもかわるので、その都度の見直しも必要。

課題：想いを綴る経験はあまり充実させられなかった。自分の感情の選択と、「何が」「何を」「どういったように」という文法的な補足がほとんどで、気持ちのさらに細やかな表現には踏み込めなかった。今 方策：自己表現のための語彙を増やすことも意識して学習を進め、宿題を出していく。

## 2 対話を通して高め合う 授業づくり

④実践目標：児童が自ら進んで課題に取り組めるように、課題提示を工夫する。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

行うべきことが分かりやすいように、ナンバリングしながら提示した。そのことによって、多くに児童は自ら進んで取り組むことができた。

なし

めあてを提示して授業をしていた。(参観した時間については)

道徳において特に意識した。

課題の量や内容、やり方を具体的に示し、やりきれぬ経験を積む。

学級の実態に応じて課題設定をすることができた。

毎時間、この授業で何を学ぶのかを明らかにして、提示し、振り返りの段階で学びを確認できるようにした。

すべての授業とはいえないが、子どもの興味をひく課題提示に努めることができた。

子どもたちの意見を引き出せる声掛けや雰囲気づくりができています。

わからない

概ね、やる気あふれる様子で学習に取り組んでいた。

### 課題と方策 11 件の回答

多くのことに自ら進んで取り組む姿勢を育むことはできていない。ICTなどを活用しながら興味を持って取り組むことができるようにする。

なし

学習課題がねらいを達成するためのものになっているか、内容の質をためていく。

特になし

ICTを活用し、スムーズに進められるように自分自身がスキルアップする。

学校全体で系統だてて計画できたかという難しい状況です。

学習課題が児童の思考とずれることがあり、さらに教材研究を極めていきたい。

教材を活用することが目的にならないように、どんな力をつけたいかという目的のために、教材を活用していく。

課題としては、私自身の声掛けや雰囲気づくりの対策の数を増やすことである。方策としては、先輩方や管理職と相談することだ。

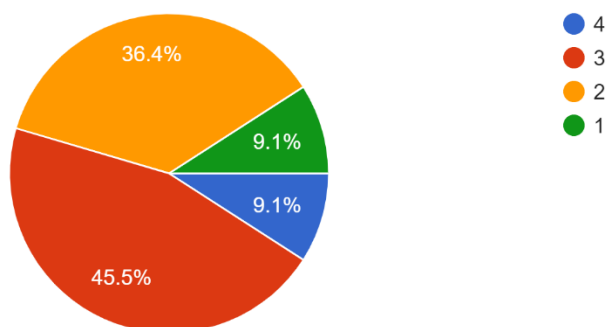
わからない

課題：児童自身の旺盛な知的好奇心が無ければ、成立しなかったのではないかと感じる課題の提示がある。

方策：より、児童の生活や興味を踏まえて、自己関与性の高い課題をデザインする。

⑤実践目標：児童同士が関わり合う、対話のある授業づくりを工夫する。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

特になし。

なし

挙手して、自分の意見を言わせようという先生方の姿勢がうかがえた。

多様なグループで対話する場を設定した。

発表したい気持ちは強いが、聞き合う

互いの意見を尊重して意見発表する児童が増えました

ペアやグループ学習から発展させていくと、自然に対話が広がっていった。自分の考えを作った後に対話し、自分の考えとの対比により、考えを追加したり、精選したりして、考えを広げる経験をさせた。その考えを全体で練ることにより、関わり合いが効果的になっていると感じている。

算数や道徳ではとくに、活発に取り入れ、多様な意見を引き出すことができた。

子どもたちの意見を引き出せる声掛けや雰囲気づくりができています。

グループ活動などを積極的に取り入れられている。

回答が一致したら正解開示のボタンを押していいというルールのもと、クイズの答えについて二人で相談して、互いの意見を聞き合い確かめることができた。

### 課題と方策 11 件の回答

話し合いが成り立っていない。話し合いのルールを確認しながら行っていく。

なし

一部の子だけの意見になってしまったり、座ったまま答えたりしている場面をよく見かける。発表しやすいように、ノートに自分の考えを書かせ。書かせたら、必ず発表させるなどの工夫が必要。

特になし

発表したい気持ちは強いが、聞き合う意識がまだまだ低い。お互いの意見を説明する機会をもつ。

互いの意見を受け入れ、自身の意見を変化させたり強化させたりする習慣はまだ身につけていません。

着席したまま話し、挙手しての発言を避けようとする傾向にある。座ったまま話す場合、自然に話せるが、指名されると話しにくくなる。どの発達段階においても、起立して発言できるようにしておくことで、大きな集団になっても堂々と話せるようになるのではないかと考えている。

話し合い活動において、必要に応じて子どもの役割分担をする必要があった。

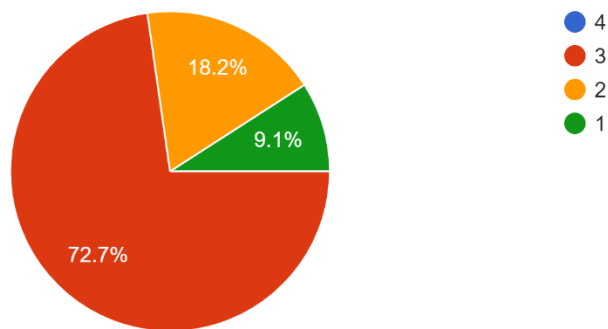
課題としては、私自身の声掛けや雰囲気づくりの対策の数を増やすことである。方策としては、先輩方や管理職と相談することだ。

グループ分けなどの工夫や、1人に負荷のかからない取り組み方などの工夫が必要

課題: 資料を協力して読み取って、意見を深める話をすることはできなかった。方策: ジグソー法を発達段階にあうようにデザインし、自分しか渡されていない資料を読み取って、相手に伝える必然性を持った学習を試みる。

⑥実践目標：基礎的・基本的な知識・技能や学習習慣の定着を図る指導を充実させる。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

特になし。

なし

小人数で学習できるので、一人一人によく目を配ることができる。合間の時間を利用して、九九の暗記をさせたり、計算カードに取り組ませたり、復習タイムをとったりしている。

かなりの量の演習を行った。

家庭学習による学習習慣作りができた。まちがいがあれば、必要に応じて全体で確認し、確実に直すなど、定着を図っている。

学習している単元については丁寧に進められたとは思いますが

日々の授業の充実を図り、学びを充実させる努力をしてきた。

テスト前に、しっかり時間をとり単元の復習を行った。

子どもたちの意見を引き出せる声掛けや雰囲気づくりができています。

宿題などで繰り返し定着できるよう取り組んでいる。

つまずいた時に、「先生問題」と称して、そのつまずきを解消する手がかりがある復習問題を作り、児童が自ら閃く機会とした。

### 課題と方策 11 件の回答

漢字の定着率が低い。小テストなどを活用する。

なし



持ち物がそろわない、家庭学習ができていないという話を職員室の中で聞くことがある。持ち物がそろってこそ、学習に集中して取り組むことができる。家庭学習をきちんとする習慣をつけられるにしていきたい。がんばりタイムを本来のやり方に戻していくべき。

個人差に応じて、自主的な学習を増やしていきたい。

既習事項について、繰り返し学習することができなかった

知的好奇心を高める工夫が必要だと反省している。

基礎基本のためのドリル学習が弱い。

課題としては、私自身の声掛けや雰囲気づくりの対策の数を増やすことである。方策としては、先輩方や管理職と相談することだ。

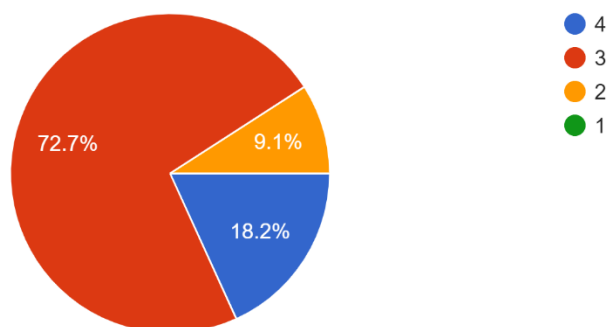
学習習慣の定着が難しい子どもへの対策など共有したい。

課題：宿題の難易度を見誤り、宿題の直前で時間を多くとってしまうことがあった。方策：当日の宿題の内容を児童と確認し、解き方やヒントの書きこみの有無を判断する。

### 3 心の醸成と 健康な体づくり

⑦実践目標：自他の良さを知り、自分や学級、学校をよりよくしようとする態度を育てる。

11件の回答



#### 成果 11 件の回答

特になし。

学校行事やブロック活動などにより、異学年との交流や遊びで全校での仲間意識が育っている。

6年生がリーダーシップを発揮し、行事などを通して全校生を引っ張っていった。縦割り班活動は、子どもたちの自己有用感を高めている。

当番や係活動、そうじ等で取り組んだ。

自分や友だちのがんばりやよかったところを見つけることを続け、毎日発表できるようになった。

友達の良さはいくつかのことを直ぐに話せるようになりました。学級や学校についても、よくしようと努力できました

学校全体のために自分にできることや自分の役割を精一杯しようと努めたり、ともに協力し合ったりすることができた。明るく、前向きな姿勢で取り組めた。

子どもたち主体の活動を多く取り入れ、学級や学校のことを自分事として考えさせることができた。



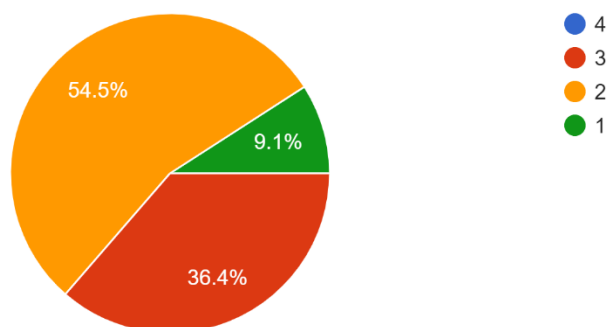
子どもたちの意見を引き出せる声掛けや雰囲気づくりができています。  
グループ活動や縦割り活動など、様々なスタイルの活動方法により、互いに知り合う機会となっている。  
ごく少人数の空間では安心して何かに挑戦して、できたことを喜ぶ姿がよく見られる。他者のすごいと感じたところを素直に称賛する姿が見られる。

### 課題と方策 11 件の回答

自分の学級ではできていない。他の人の考えを知る機会を作る。  
〇〇名人 の紹介など、こどもたちの得意なことや興味のあることなどを、集会で披露できる機会があってもいいと思う。 ゲームが得意な子や、歌が得意な子、虫博士など色々いると思います。  
加東市の児童生徒アンケートの結果を見ると、「自分にはいいところがありますか」という質問項目に「思う」と自信をもって言い切る児童が少ないのが気になる。今までも取り組んできているが、一人一人が様々な場で活躍できるよう、自信をもって学園に向かえるようにしていきたい。  
係活動が上手く機能しなかった。  
いろんな人から評価や言葉がけをもらえるようにしていく。  
自分の良さについて、自信を持つほどにはなっていません  
学級のことになると、固定的な人間関係の中で甘えや自分勝手さが出て、より良いものへとするための建設的な考えをもって行動できないことがあった。道徳科や国語科をはじめとした学習や生活の中で、他者と折り合いをつけることや相手を尊重することなど考えさせる機会を多く設けてきた。より充実させていくこと  
周りの雰囲気にも乗り切れない児童への支援をどうするか。  
現状維持でよいと考える。  
小人数の学校のため、お互いを良く知っているのだが、そこに入りきれない子どもが数人いるように思う。  
課題：他のクラスメイトに比べて、得意分野ではないことが多いと感じているのか、活動に消極的になる場面がある。 方策：もどかしさや不安といった気持ちに寄り添いつつ、挑戦したい気持ちを応援する。

⑧実践目標：自分の生活を客観的に見つめ、自律的に生活できる児童を育てる。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

自己調整できる幅をもった宿題や授業を意識して行った。その結果、自分で考えながら学ぶことができるようになった児童の数が増えた。

給食などを通して、嫌いな食材にチャレンジしていく姿勢がみられる。それを応援したり喜び合う姿がみられた。

リップクリーム、カイロの持ってきたり使い方について、学校でルールを決めるのではなく、児童に考えさせる機会をつくっている。

週目標や生活目標で振り返った。

日頃から、意識して話すことで、少しずつは自分でかんがえることができた。

後になって振り返って、自分を客観的に評価できるほどにはなっています

最高学年という立場で活動する際は、自主的、自律的に行動することができた。

道徳科の授業において、自分の生活を見直す機会を多くもった。

社学園に向けて大人数への雰囲気づくりができています。

遅刻や欠席が少なく、生活リズムが大きく乱れている児童がいない。

衛生面や他者とのコミュニケーションについて、必要な習慣としてどのようなものがあるのかを伝えた。

### 課題と方策 11 件の回答

客観的に見つめることができない児童へのアプローチができていない。見つめる視点を絞り、難易度を下げた取り組みを行う。

低学年などの自律支援を高学年との交流(給食交流や生活目標での交流など)を行い、子ども同士で高め合うことを取り入れてもいいかと思う。

自律的に生活できるようになるには、まだまだだと思う。生活面でも、学習面でも、自分で目標をもたせ、取り組ませ、日々振り返りを行っていく必要がある。来年は、ノーチャイムに取り組んでいくことで、チャイムに頼らなくても時計を見て行動できる子にしていきたい。

来年度は、年間を通して実施していく。

自分中心で衝動的な行動や楽な方に流れることがあるので、意識させていきたい。

自分の発言・行動の瞬間には客観的にはなれていません

自分に甘く、課題をやり遂げられなかったり、苦手なことから逃げようとしたりする児童に対して、よりよい指導ができなかった。愛情をもって、優しさと厳しさを指導したつもりだが、十分ではなかった。

高学年層においても自分を客観的に見ることは難しい。授業を工夫していきたい。

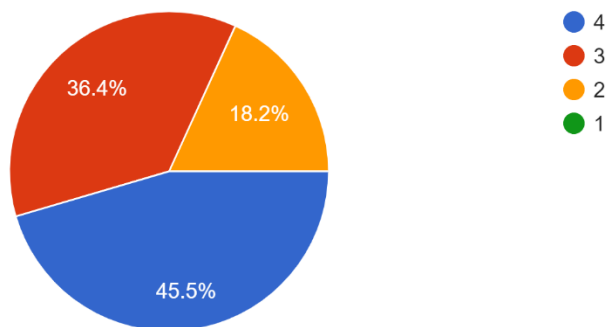
課題としては意識だけではなく習慣の一部に大人数のことを入れることだと考える。方策としては研修に参加することである。

自分で持ち物の管理や整頓など出来ない子がいる。他人には厳しく批判するが、自分ができていないことは客観的に見えづらい子どもが多い気がする。

課題:自身の作業を中断して他者に合わせることを、周囲から強い刺激(大声や強い語気)で言われると反発が生じる。方策:作業の中断に対する、気持ちの切り替え方について前向きに伝え、自ら気づいて行動を変えられるように支援する。

⑨実践目標：仲間と共に体を動かすことを楽しむ児童を育てる。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

体育の時間ではみんなが楽しいということ意識して行ってきました。その結果、周りの人が楽しめるような作戦やルールを考え始める児童がでてきた。

体育的行事を中心に、目標を持ち、体力づくりに取り組んでいる。

業間休みが長いので、休み時間に誘い合って元気に遊ぶ児童が多い。

教師が積極的に体を動かした。

休み時間や下校前、耐寒マラソン、縄跳びなど元気に取り組んでいる。

子どもたちは自らよく運動しています

学級全体で外での遊びを楽しみ、体を動かすことができた。

運動会、駅伝大会、マラソン大会など、仲間とともに頑張る姿が見られた。

楽しい雰囲気づくりができています。

体育的行事を中心に、体力づくりの機会が多く設けられている。

児童の身体能力の範囲内で行える運動やゲームを、とても楽しんで行える。

### 課題と方策 11 件の回答

自分だけが楽しいから抜け出せない児童がまだいる。得意不得意がひっくり返るような内容を意図的に取り入れ、苦手な児童の気持ちを体験できるようにする。

時間をかけて成果の出るようなもの(柔軟性や一輪車など)学校全体か学年ごとに、1年を通じて取り組むものがあってもいいのかと思う。

寒い時期は、教室の中で過ごしている児童も少なからずいる。今後も、寒い時期でも体が温まるような縄跳びなどの活動を奨励したい。

異学年遊びが少なかった。

一緒に活動する機会を増やしたい。

教師として、具体的な支援を私自身は行えていません。学校としてはよくされていると思います。

寒くなるにつれて、室内で過ごすようになった。また、行事や委員会の役割を果たすために、校内で過ごすこともあった。異学年遊びが計画されていても、学年の学習等でなくなってしまうことも多かった。

普段の生活の中でも、そういった機会を増やしていきたい。

今の状況でいいのではないかと思う。

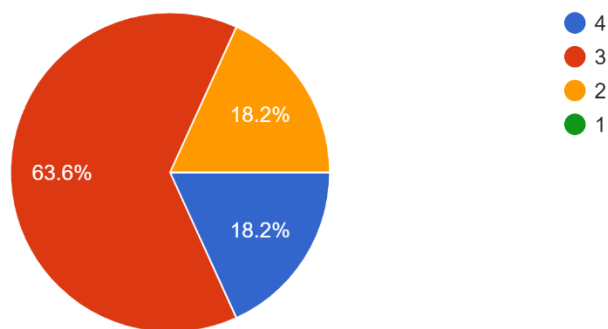
このまま、体力作りを継続

課題: 苦手意識や諦観が感じられる場面がある。 方策: 運動を楽しむ気持ちをこれからも持ち続けられるよう、他者との遊びの中でもゲームデザインを工夫し、参加しやすくする。

#### 4 児童の「将来の自立」に向けた キャリアづくり

⑩実践目標：体験活動や自治的諸活動を通して、...を果たしながら自分らしい生き方を考えさせる。

11 件の回答



#### 成果 11 件の回答

自分の役割を意識できる児童が増えてきた。

茶園や畑、校外活動など、小規模校だからできる体験が出来ているように思う。

学校行事等で、6年生がリーダーとなりそれぞれの役割を果たしていた。出前授業等、体験活動も多く、児童が将来の夢をもてる活動があった。

体験活動は充実させた。

クラスの中での役割や生活科で取り組んだ家庭での役割をもつことで、成長が感じられた。

自治的活動を高学年がよく行い、それを3年生たちもよく見ることができています。

1人一役以上の役割を果たすために、真摯に取り組むことができた。その中で、自己肯定感を高めることもできた。

自然学校が4泊5日に戻り、自分の役割を果たしていた。有意義な活動になった。

自然学校や体育のイベントなどで学年が上がるにつれて自立している様子が見られる。

校外学習やゲストティーチャーなどによる体験活動などが盛んに行われている。

当番の仕事を嫌がらずに行えている。

#### 課題と方策 11 件の回答

自分らしさまで考えることができていない。役割に幅を持たせ、自分の色が出せるような工夫をする。

リサイクル活動などは、高学年が参加して(参加のかたちは考える必要はあるが)地域貢献と環境問題を考える機会になってもよいかと思う。

活動を実りのあるものにするために、学校行事や体験活動を実施する前に、しっかりと目標をもたせて取り組み、実施後にも振り返りを行う。

生き方を考えさせるところまではいかなかった。

自主的に仕事や役割を見つけ、取り組めるようにイメージを伝えていきたい。

多くの活動があり、充実する一方で、一つひとつの活動に関する精度を上げることや、子ども自身が目的やねらいを理解するほどには至っていないように感じています。

個人的な視点では、自信がなく、自己肯定感も低い児童が多い。それぞれの言動について、きめ細かい価値づけをして、自尊感情を高める指導をしていきたい。

普通の授業の中でも、そういった考えを持てるように工夫したい。

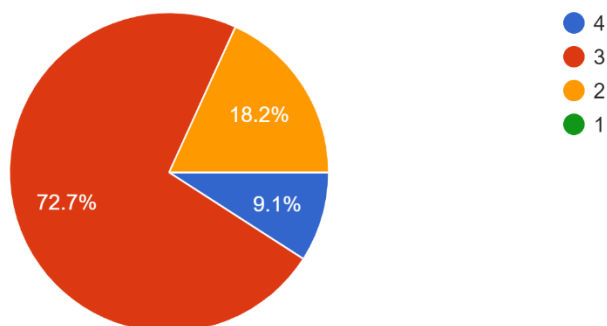
課題としては、大人数になった時の考えの変化である。方策としては、日常会話に考えの肯定・否定を精査することである。

専門家による指導は、関心がたかく、吸収しやすいので継続していきたい。

課題: 当番の仕事をおぼろげに忘れることがあったり、一般的に求められている仕事の精度の認識がずれていることがある。方策: 何のために、何を意識して、どのように行えばいいのかを納得を伴えるように伝えて、衛生面などの認識のずれを埋めていく。

⑪実践目標：自分の目標に向けて、最後までやり遂げられる児童を育てる。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

やり遂げることが大切である話をし続け、やり遂げられる児童が増えてきた。

様々な行事を通して、目標達成に向けて努力する姿は見られる。

すべての事柄ではないが、ほとんどの児童は、目標をもって頑張っている。

そうじや給食、学習等で声かけした。

やらされることなく、自分でやり遂げたいと思って決めた目標に向かって、頑張れた。

与えられた課題に対して、努力する児童はいます

最後までやり遂げるように励まし、妥協せずに指導を続けた。

大きな目標だけでなく、小さく近くにある目標にも目を向けることができていた。

自然学校や体育のイベントなどで学年が上がるにつれて自立している様子が見られる。

やり遂げようとする姿がみられる児童がいる。

自分のペースで落ち着いて支援が受けられる場面では、意欲的に課題に取り組み続けることができる。

#### 課題と方策 11 件の回答

投げ出してしまう児童はまだいる。質以上に最後までやり遂げることことに価値を置き、伝え続ける。

短期目標と長期目標をそれぞれ持たせることを意識する

一部の児童は難しい。長期的な目標は長続きしないので、小さな目標をたて、成功体験を重ねていく。

自分の力を最大限発揮できていないと感じる。

結果だけでなく、過程の頑張りや伸びを評価していくことで支えたい。

自分で目標を設定し、課題に取り組むほどには至っていないのと、目標達成に至る前に取り組みを終える児童もいます。

1年間継続して指導しなくてはならない児童がいたことは、指導のあり方を見直す必要があるということだと認識している。

目標を持つことができない児童への声かけや、目標が可視化できる活動を取り入れたい。

課題としては、大人数になった時の考えの変化である。方策としては、日常会話に考えの肯定・否定を精査することである。

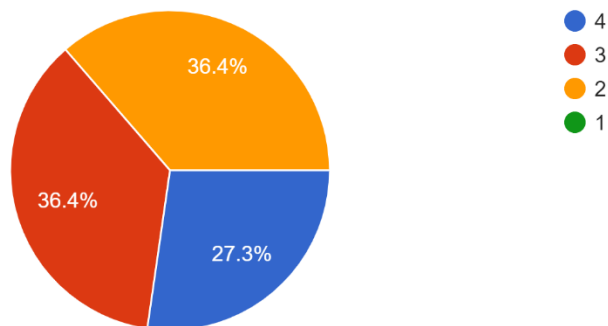
こつこつやることの苦手な児童への取り組み方や、家庭との連携について、対策を共有できたら嬉しい

課題：目標を念頭においておくことが難しい。方策：視界に入るところに掲示する。

## 5 児童の学びを支える環境づくり

⑫実践目標：読書活動を推進し、読書に親しむ児童を育てる。

11 件の回答



#### 成果 11 件の回答

特になし。

先生の本紹介や昇降口の掲示などで、興味を向ける工夫がされている

朝会で、先生からのおすすめ本の紹介を実施した。興味をもって、紹介された本を手に入れている姿を見た。

環境は整ってきた。



読み聞かせや本を読むのが好きな子が多い。お届け図書や図書委員会が選書した本を隙間時間によく読んでいます。教師からの本の紹介や、新しい本を入れることで、興味を持って読んでいた。

お届け図書館、図書委員会の活動、おすすめの本紹介など、子どもが本に触れられるようにする活動が充実していると思います。

図書室の本を動かして、たくさんの方が児童の目に入るように工夫した。書店をまわり、旬の本を選書したり、図書委員会の活動として、高学年の選書をもとに本を購入したりすることもできた。複数の教職員が図書室運営に関わって、経営することができた。また、先生方におすすめの本を紹介していただき、多様な分野の本に触れさせることができた。

読書通帳を用いることができた。意欲的に取り組む児童がいた。

読書に積極的に取り組んでいる児童が多いように見られる。

おすすめ図書などを通して、関心を持たせる工夫がされている。

物語だけでなく、図鑑などの知識が詰まった本も興味を持って読むことができる。

### 課題と方策 11 件の回答

読書に時間を設定する。

長期休みの前などに、子ども同士で本の紹介やおすすめ図書などを紹介する機会をもうける。読み聞かせの時間を設ける。

市の図書館などで、本をまとめて借りてきて、本をすぐ手にできる環境をつくる。

読書好きは増えなかった。

意図的に本を読む機会や本の紹介を増やしていきたい。

子どもたちが、自ら本に親しもうとする姿を実現するには至っていません。

本を読む児童が増えたと思っているが、まだ全く読まない児童もいる。さらに、動きのある図書室経営をしたい。

ネット社会の中、家庭で読書に触れる機会が少なくなっている。学校で機会を増やしたい。

課題は特にないと感じる。方策というより、提案として朝の読書の時間を取り入れるとよいと考える。

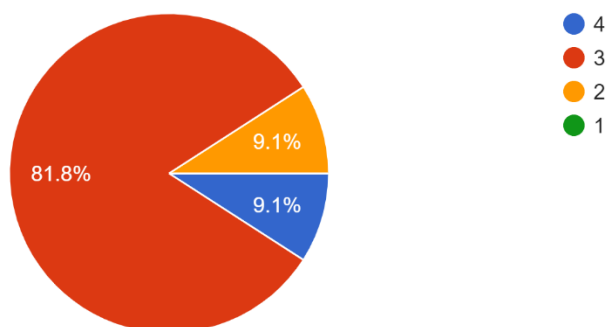
図書がすくなく、選択肢がすくない。読み聞かせなどの機会を月に一度でも依頼などして実現できないか？

課題：物語において、概念的な解釈や、少し複雑な心情や状況理解に困難があるため、物語の楽しみ方が限られる。方策：想像する機会を多く設け、いろんな本にも挑戦できるようにする。



⑬実践目標：学びの足跡が見える掲示物や整理整...室内など，学びが深められる環境づくりを行う。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

整理しなければいけないと言葉にする児童が増えてきた。

各学年とも工夫されながら、掲示や配置など考えられている  
道徳の掲示を残すことができた。来年度の授業の参考になる。

分担を決めて、掲示をすることができた。

昇降口の掲示板では、各学年の学びが見れるのでよかった。図画の作品を校内に展示されているのもよかった。

教師主導での学習環境づくりは進んでいると思います。

どの学級も整理されて、学びの環境として良好だったと思う。

授業で学んだこと、考えたことを教室に掲示し、意識づけを行うことができた。

読書ということに興味を持てる工夫の掲示物が多いように感じる。

掲示物などを工夫しながら、足跡が見えることもあり、児童の成長や得意なところを見ることができる。

詩などの児童の作品や、社会でまとめた資料を教室後方に掲示していつている。学習の中で、教室後方のその  
掲示を確認して、自分の疑問を解決しようとする姿が見られる。

### 課題と方策 11 件の回答

学びの足跡は残っていない。学んだ言葉や内容を残すようにする。

昇降口付近の掲示が様々な情報が混在したり、掲示がされていなかったりする。掲示場所の配置や掲示時期など整理してはどうか？

他の教科の足跡も残す。子どもたちの学びがこれまでの学びとつながったものになっていく。

なかなか定期的に貼りかえられなかった。掲示板は減らして欲しい。

掲示板の作品を月に1回は変えていけるとよいと思う。参観日前に慌てて変えることが多かった。

子どもたち自身が掲示の提案をしたり、整理整頓したりするような環境づくりまでは進んでいないように感じています。特にロッカーの整理整頓、教室の外にかけている雑巾の整理が気になります。

今年度も学年、研推の掲示板の動きが悪かった。担任だけでなく、専科や教科担任の指導による掲示物を貼ることも検討したい。

教師への負担が大きく、すべての単元・授業においては難しい。

現状維持でよいと考える。

昇降口付近の掲示量が多いとき、少ないとき、長らくかわらないなどがみられるので、活用方法について、再検討してはどうか？

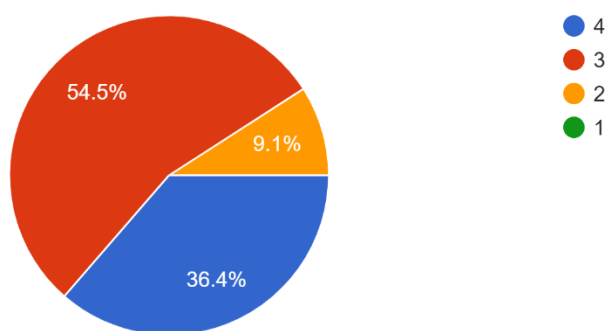
課題：児童の作品など以外の、児童が学びの中で見せた素敵な姿そのものを称賛する掲示ができていない。

方策：発表する姿や、考えたことを言葉にしようとしているところなど、児童の姿を口頭でももっと褒めながら、掲示で視覚面でも支援し、児童が自分の行動を意識できるようにする。

## 6 家庭や地域に信頼される 学校

⑭実践目標：各種通信やHP、学校オープンにより、保護者や地域に学校情報を積極的に発信する。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

連絡が分かりやすくとっていただけた。

テトルでの配信ができるようになり、これまでより細かく情報が伝わっているのではないかと思います。

今年度は、どの行事も地域の人にも参加していただくことができました。

クラスルームを活用して、発信できた。

学校通信、学級通信、tetoru 等で、積極的に発信できていたと思う。

保護者に対して、積極的な発信をよくされていると思います。

学校、学級通信、テトルによる通信や連絡、ホームページを通して、学校からの情報発信が充実していた。

学級懇談会や学級通信において発信することができた。

テトルを使用し、保護者や地域の方々の目に留まりやすいようになっていると思う。

テトルでの発信が増え、手軽に学校の様子がわかるようになったのは良かったのではないかと。

こまめな発信がなされ、学校が保護者や地域に対して開こうとしていることが、周囲に感じられたと思う。

### 課題と方策 11 件の回答

学級通信をあまり出せていない。授業の様子や日常のなにげない様子を伝える。

個人情報との関係で、子どもたちの様子が伝えきれない時代かと思うので、積極的という部分はなかなか難しいなと感じる。

保護者への伝え方は様々あるが、学年によって通信の出し方に差があるので、週に 1 回は、学級通信を出して、保護者に子どもたちの様子を伝えるようにしたい。

クラスルームとテトルの使い分けがわからない。

学校での取り組みやそのねらい、子ども達のがんばりなど伝えていきたい。しかし、学級通信など負担になりすぎないように考えていきたい。

次月の予定が保護者には知らされ、職員会議には上がっていないのが気になり、意見を申しあげました。保護者や子どもが大事ですが、その発信については、職員会議の決定を経てから、という大原則を今後も守りたいと感じます。個人的には、学級通信や生徒指導通信を最近はほとんど出せていないのが申し訳ないです。今後は努力したいです。

学級通信をタイムリーに出せるとよかったと思った。

学校や教育への関心が薄い家庭への働きかけをどうするか。

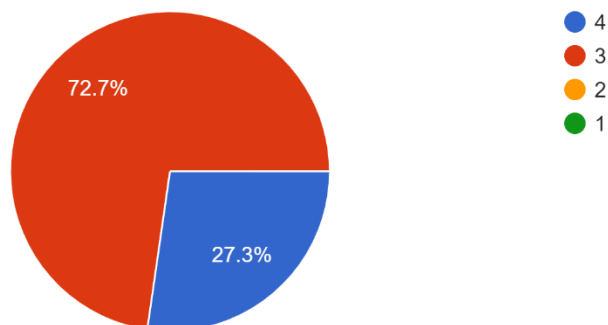
課題としては、自分が HP の更新を頻度高くできなかったことである。

行事的なことだけでなく、日常の様子などもふくめて、幅広い情報を発信してもよいのではないか？ 委員会活動やクラブ活動、掃除や給食の様子なども、

課題：発信の負担が一部の方に過度に偏ってしまった。方策：ルーティーンにする。

⑮実践目標：学校の教育活動を円滑に進めるため、保護者との連絡を密に行い、共通理解を図る。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

問題に発展することはなかった。

電話連絡などはコマめにしておられる様子がみられ、保護者からの学校への信頼もあるように感じる気になることは、学校から先に連絡を取ることで、保護者に安心感を与えることができた。一人で抱え込まず、他の職員に相談しながら取り組むことができた。

必要に応じて連絡を行った。

学級通信、連絡帳、電話、対面等で取り組んだ。

よく連携されていると思います。行事の際の PT A の方の協力は大変ありがたいです。素晴らしいとさえ感じます。

どの学年も、電話や面談などを通じて、連携を図ることができている。

大きなトラブルはなかったが、必要な場合は連絡を行った。

保護者との連絡を密に行っていると考えます。

学級役員さんを中心に連絡調査をおこなったり、欠席者への連絡をきちんと行なっている。  
連絡帳を活用して連絡をしあった。

### 課題と方策 11 件の回答

前もって相談出来ることを、直前になってしまった。見通しを持つ。

子どもたちの生活や教育は保護者の協力が不可欠なので、学校との共通理解は大切ですが、関係を築きたい人ほど関心を持ってもらえないこともあるので、その部分をどのように工夫すればいいのか？を学ぶ機会があればと思う。

子どもたちの情報を小さなことでもみんなで共有しておくことで、トラブルを未然に防ぐことができる。すぐ報告・相談を・・・。

特になし

学校の思いや考えを理解してもらえるようにしていきたい。

PTA 活動は教職員が参加するのは原則であると思いますが、その量が多い方だと感じます。前向きにその活動量の縮小を見直すことや、評議員会の開始時間を早めるなど、少しずつ工夫を加えることで、職員が子どもと向き合うための方策を模索することを求めます。

個別懇談会を時間厳守する。保護者の信頼を得る。

児童の良い点もさらに発信していきたい。

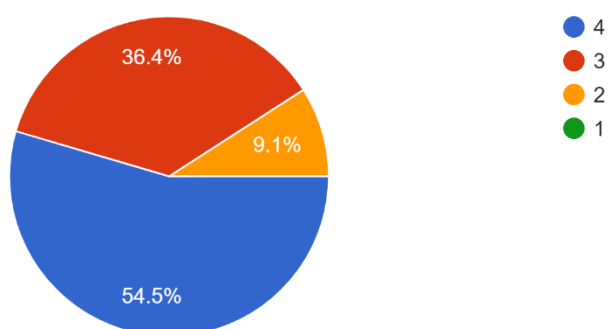
現状維持でよいと考える。

出欠連絡がテトルになり、保護者との連絡や話す機会が減ったようにも思う。

課題：課題というほどではないが、留守番電話が早まるタイミングなどを明確に強調して周知されていなかったため、保護者からの折り返し電話に気づかないことがあった。方策：必要事項の周知。

⑯実践目標：授業や行事などで地域や外部人材と連携するとともに、児童の感謝する心を育む。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

たくさんのゲストティーチャーを招き、自分ではできない授業をしてもらい、質の高いものを児童に届けることができた。

外部講師などで、関心や興味を持たせる機会があり、こどもたちの喜んでる表情を見る機会が多い。

地域の方にお越しいただけるようになり、子どもたちの意欲が高まっている。とくに、ふれあい茶摘みや運動会は、地域の方と交流する場面があり、支えていただいていることを感じていた。また、外部講師を招へいする機会が多く、子どもたちの将来の目標になっている。

特記事項なし

野菜作りやクラブでもゲストティーチャーに来ていただき、教えてもらうことで、多くのことを学ぶことができ、感謝できた。

地域や外部人材とよく連携されており、その特色を生かした取り組みが多いと感じています。

今年度は、どの学年もゲストティーチャーを招いて学習の充実を図ることができた。

総合学習において、他の専門機関とコラボし、子どもたちの意欲向上につなげることができた。

素直で感謝の言葉をスラスラと伝える児童が多いと考える。

外部講師などお願いしながら、すすめていることが多くあるようにおもう。

お礼を全員で言う習慣はついていると感じる。

### 課題と方策 11 件の回答

感謝の部分を伝えきれていなかったと感じている。

様々な専門家からの指導は、子どもたちの関心も高く吸収しやすいので、感謝の気持ちも大きいように思うので、時間や予算の関係もあり難しいのかもしれないが、多くの人から学ぶ機会を設けられたらと思う。

外部講師にお話を聞くことは、子どもたちに貴重な体験になるが、急に計画が入ったり、ほかの行事と重なりすぎたりするので、年間行事予定や出張等をよく見て入れてほしい。

特になし

うまく活用できるように計画していく。

子どもの中に、感謝する心が育まれたかを判断するための指標を、私自身が理解しきれていないので、評価しづらいです。「ありがとうございました」と言いましょと教職員が言えば、元気な声でお礼の言葉を言える子どもは多いです。

体験だけに終わることなく、事前、事後の学びを充実させる。

どこを目標にするのか、事前の計画が大切である。

現状維持でよいと考える。

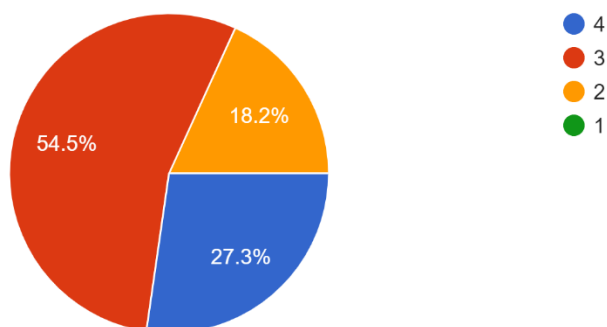
講師料などをどのように使うのかを年度初めに各学年や部会から出し合い、調整したい。3 学期頃になって何かないかと言われると、日にちの調査ができない。

課題：外部から来ていただいている方に対しての言葉遣いがため口など、相応しいものではない児童が目につく。方策：事前指導をしっかりとる。

## 7 安全・安心な学校づくり

⑰実践目標：危機管理意識を高く持ち、常に児童...全に配慮した安全・安心な学校づくりをめざす。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

緊急体制について提言することを通して、学校全体で考えることができた。

安全点検を毎月複数の先生方で行っていることは、安心感がある。

エピペン研修、避難訓練、心肺蘇生法、ジェンダー研修、ICT研修、ハラスメント研修など様々な研修を行った。

特記事項なし

きめ細かく対応できていたと思う。

防災訓練などは十分できていると思います。

環境整備が充実していた。

避難訓練の実施方法を工夫することができた。

子どものために考えて環境整備をしていると考える。

避難訓練などを毎年行い、意識を持てるように取り組んでいる。

避難訓練を定期的実施している。

### 課題と方策 11 件の回答

大丈夫だろうと考えてしまっている時があった。最悪の状況を想定し続ける。

道路から丸見えのグラウンドは安心感がない。教員数は多くないので、本当の危機があった場合、どこまで対応できるのだろうかと不安を感じることもある。低学年でも更衣室が必要だという時代でになっています。しかし、高学年ですら囲いの薄い状態で、安心感はありません。

いずれも大切な研修なので、加東市からくる研修以外のものは、できるだけ水曜日に計画的に行うようにする。年度当初に研修を整理して入れておくようにする。

安全点検が先延ばしにしがちだった。

安全面を考えると、教室内でストーブをつけることができなかった。

運動場に出ても歩く子ども、避難訓練中に私語が見られる子どもなど、防災意識の醸成には至っていないと思います。

定期的に安全点検をする。

児童の意識の統一化をどうするか。

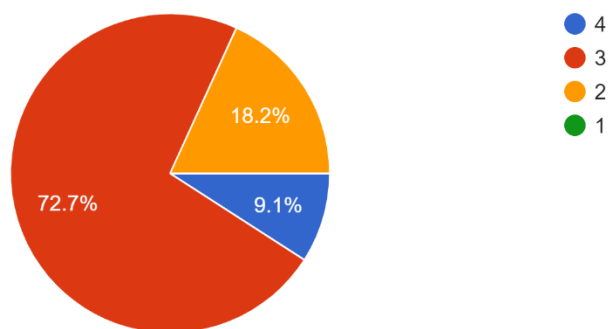


課題としては、環境整備のための時間が少ないことだ 方策は思いつかない  
それぞれの危機管理意識に頼っているところもあるので、学校の危機管理マニュアルなので、再確認をしたい。

課題：警報機の誤作動が時々起こる。いざという時に、危機感を軽視することにならないようにしたい。

⑱実践目標：生活指導，保健指導（心のケアも含...に関して，体制の整備や指導・相談の充実を図る。

11件の回答



### 成果 11 件の回答

カウンセラーにつながりながら支援できた。

生活目標を設定して、全校で取り組んでいることは、目標が共通認識できてよい。

日々の児童とのかかわりの中で気になることについて、毎日の打ち合わせの中で共通理解できた。その中で、特に気になることについては、ケース会議を行って対応している。

ケース会議を実施した。

夕打ちやあいあいタイム等、全職員が情報を共有し、共通理解して取り組めたと思う。

教職員同士で、子どもについての情報共有の時間が多くとられていることや、「なんでも書こうカード」など、子どもの実態把握を行おうとする取り組みは充実していると思います。

早期発見ができた。

教職員間で常に情報共有することができ、複数対応することができた。

日々の生活へのアンテナを張り、ケアを行っていると考ええる。

生活目標を決めて、全校で取り組んでいることで、意識が高まる。

こまめな研修や、ケース会議を行っている。

### 課題と方策 11 件の回答

教員の中でも指導の行き違いがあった。教職員の連絡体制を全員で確認する必要がある。

保健指導の機会が1年を通して計画できていなかった。身体測定や集会の機会をとらえて指導を行いたい。

カウンセラーが月に1回半日しか来校されないの、もう少し回数を増やしてもらえないか？

一人一人がよく見えるので、これぐらいだったら大丈夫とってしまうところがあるように思う。小さなことでも、大きなトラブルにつながることもあるので、情報共有していきたい。



教師をフォローする体制も必要か。

スクールカウンセラーとも連携して取り組んでいきたい。

子どもの心のケアのための教職員の研修成果が十分でないこと、具体的方策についての知識が十分でないことを感じています。学校というより市として、不登校支援及び SC の配置など、必要十分に達していない取り組みが気になっています。統合後のケアについて、施設設置などの協議がどこまで進んでいるのかを知りたいです。

迅速かつ組織的な対応の充実を図る。

LGBT への共通理解を図る必要がある。

課題としてはジェンダーへの児童の支援方法を学ぶことである。方策としては積極的にジェンダー研修を入れることだ。

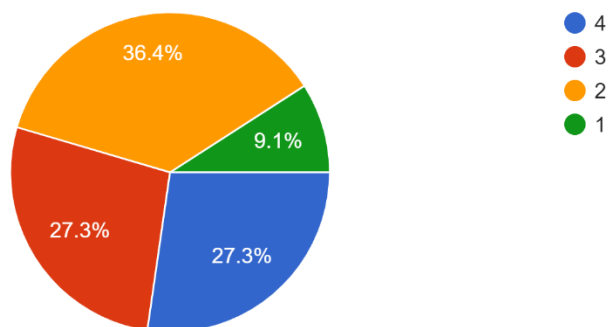
スクールカウンセラーの来校回数が少なく、相談に繋がらない。もう少し回数を増やして、児童の観察も増やしてほしい。

課題: いざという時に児童の対応で自由に使える部屋が無い。

## 8 勤務時間の適正化

⑨実践目標：夕打ちの活用や協議事項の焦点化により、会議時間の短縮を図る。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

早く終わる内容がたくさんあった。

夕打ちがあり、1 日に 1 回は職員が集まる時間があるので、共通認識する機会があるのはありがたい。

職員会議の時間が短くなった。提案者が焦点化した提案を心がけている成果が出ている。

なし

短時間で連絡、確認ができています。次の会議の予定を確認して準備ができています。

夕打ちはとても有効だと感じています。

夕方の打ち合わせは、情報共有に有効だった。緊急性のある案件の情報共有、気づきの共有化を図ることに  
より、早期発見や対応へとつながった。

夕打ちを有効活用することができた。

短縮されていると考える。

努力しているところはある、短縮していこうという動きは見られる。

先生方に周知するタイミングが毎日どこかであるので、計画などを立案実行しやすい。

### 課題と方策 11 件の回答

話し合いになってしまうと時間が長引いてしまっていた。

校支援やクロームなどの使い方を工夫使用し、情報発信ツールを限定することで共通認識しやすい。

資料を月曜日に印刷していただいているので、全員がよく読んで職員会議に出席するようにする。できるだけ様々な会議を水曜日に実施する。校内教育支援委員会、あいあいタイムなど、話し合う内容のすみわけをきちんとすることが大切。

会議や研修の時間が長い。会議の回数を増やしてはどうか。

今後も継続していく。

会議時間や、その準備の時間の短縮のためにも、会議資料のペーパーレス化、チャット等の活用による情報共有の充実を求めます。

会議の中の論点の焦点化を図り、時間短縮をめざす。

ペーパーレス化が全く進んでいない。

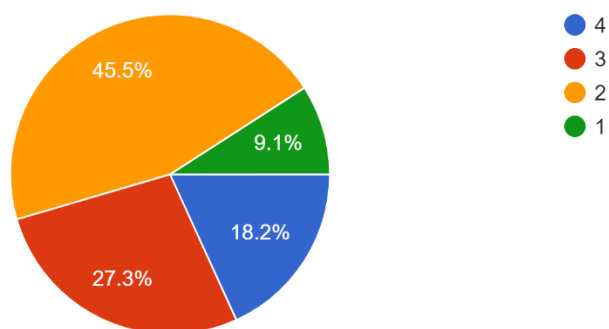
現状維持でよいと考える。

議論すべきことは必要ですが、もっと機会的に進める必要のある場面もある。

課題：個人的な反省ですが、朝、校支援を開いて掲示板を確認することをよく忘れる。方策：連絡事項が多く行きかう時期は、職員室設置のテレビにつないで掲示板を視界に入れるようにする。

⑳実践目標：自身の健康や児童と向き合う時間の...ため、見通しを持って効率的に職務を遂行する。

11 件の回答



### 成果 11 件の回答

自分で早く日を決めて帰ることができた。

定時ではないが、退勤が早くできるようなには心がけているし、全体でもそういう意識は強い。

全体的に先生方の帰宅時間が早くなったと感じている。放課後、職員室の人がだんだん減ってくると、なんとなく早く帰らないとという気持ちになってくる。

個人的にはできた。

to do リストを活用した。

退勤時刻を早められているのはありがたいです。

全体的に退勤される時間が早く、よい傾向にあると思う。

職員数は少ないがお互い持ちつ持たれつのか関係を築けている。

適切であると考えます。

優先順位をつけて遂行できている部分はある。

同僚の方の経験を伺い、情報をいただくことで、スムーズに取り組めるものが増えた。

### 課題と方策 11 件の回答

見直しをもって、少ない時間を活用する。

職員数が少ないので、休みがとりづらいという気持ちが無意識に働くのではないかと。計画的な年休の取り方を学校全体で考えてもよいのではないかと。担任の負担軽減の1つとして、可能であれば、週1回でも給食を担任外が行くなどの工夫があってもよいのではないかと。

年間行事予定の中に入っていない行事が急に組み込まれることがよくあった。(写生、書初めなど)職員会議等で早めに提案し、全体で共通理解して取り組みたい。また、それぞれにやりたいことがたくさんあるのはよいが、どの学年も同じぐらい校外に出る活動を計画する。それぞれの担当ごとに、少しずつ行事のスリム化を図っていくことで、全体的な業務改善につながるのではないかと考える。

急遽入ることもあるが、実施する活動については、提案が必要では。(写生)

就業時間を超えることが多かった。もっと効率的にできるようにしたい。

最終授業終了後、子どもが下校するまでの時間が長く、また下校の見守りもほぼ全ての教職員が行うことから、放課後の事務作業に取り掛かる時間が遅くなるのが気になっています。また、土曜日の学校オープンの午後や、学期はじめ・学期終わりなどの授業時間を短縮することをもっと取り入れていただきたいです。

超勤時間が多くなってしまった。効率的な仕事の仕方をしようと思う。しかし、この仕事のおかげで、翌日以降の仕事へのゆとりができた。

上記の時間を確保するには、行事の精選が必要である。

現状維持でよいと考える。

公務パソコンでの作業に制限が多くなり、何事にも時間がかかる。

課題: 個人的な課題。放課後や退勤時刻後のゆとりとした時間に相談したり、そもそもの相談内容が思い浮かんだりするため、相談事を計画的に行えていない。それで、相談し損ねることを続けてしまい、聞き逃して早くに取り掛かれるところを逃すことがある。